

みどりの丘

文責 二本松市立新殿小学校長 高松宏光



伝統を引き継いで

11月末、職員室のある棟の2階から、何やら太鼓をたたく音がしてきます。のぞくと、来年度に向けて、子ども同士で楽器や指揮の練習を行っていました。先輩から後輩に、経験者から新たなメンバーに引き継いでいく姿は、本校の素晴らしい伝統の一つです。演奏する【校歌】は、同じ学び舎で共に過ごした《証》です。在校生に限らず、本校を卒業した保護者の方々、地域の方々ともつながる大切な宝です。

来年度、本校は合併50周年を迎えます。式典の中で、校歌の演奏が披露できればとも考えています。教え合い学び合い、本校の【校歌】をつないでいってほしいと思います。

自分の学校を大切に

学期の終わりには、必ず「愛校活動」が位置付けられており、お世話になった校舎をきれいにして感謝の気持ちを表します。建物に感謝するという考えは、「すべてに魂が宿る」という【八百万の神】の文化がある日本ならではの考え方かもしれません。国際的なスポーツの舞台でも、ごみ拾いをする日本人の素晴らしさが、海外メディアにも取り上げられます。こうした物を大切にする心や公共心は、小学校の「愛校活動」などから培われてきたものでしょう。

新殿小の子どもたちも、しっかり校舎に感謝の気持ちを示していました。



さくら学級も交流してきました

さくら学級の子どもたちが、小浜小学校で行われた三校交流会(小浜中、小浜小、新殿小)に参加してきました。「リレー」や「鬼ごっこ」「ポッチャ」などの運動を楽しんだり、クイズやヲタ芸などの出し物を披露してきました。

当日に向け、子どもたち主体で発表内容を企画し、準備してきました。交流という機会を生かして、【計画する力】【話し合う力】【表現する力】【協力することの大切さ】など、たくさんの学びがありました。



中学校の先生をお招きして

14日(木)高学年の子どもたちは、旭小との交流活動がありました。学年毎に分かれ、外国語の授業を行いました。6年生の授業は、なんと岩代中学校の英語の先生にご来校いただき、授業を進めてもらいました。来年度を先取りした形です。

ほとんどの会話を英語で進めた授業でしたが、全員が楽しそうに参加していました。授業の最後には、中学校の英語の教科書の内容も紹介していただき、進学不安が和らいだ様子でした。岩代中の協力を感謝です！



教育相談、ありがとうございました

短時間でしたが、担任からお子さんの学びの様子、生活の様子についてお話しさせていただきました。学校は、子どもたちが本当の社会に飛び立つまでの大切な準備期間です。成功も失敗も、すべてこれからの人生の糧になっていくものです。

今回の教育相談で、ご家庭にご理解・ご協力をいただきたい話もあったかもしれません。今後も、学校と家庭で連携を密にし、大切なお子さんを伸ばしていきたいと思っておりますので、どうかお力をお貸し下さい。

※ インターネットを介した不適切なサイトや情報に、子どもたちを近づけないよう、ご配慮ください。



見合って学ぶ(互見授業)

12月は「算数科」の複式指導のレベルアップのために、教師間でお互いの授業を見合い、学び合う機会をつくりました。二つの学年の授業を同時に行うというのは、なかなか難しいものです。同僚の授業を見て学び、気づいたことをアドバイスし合うことで、各クラスの指導力の更なる向上に努めています。

